

新年を迎えて

しずない農業協同組合 代表理事組合長 片岡 博



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

組合員の皆様には、御家族ともどもご健勝で新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。日頃より当組合の事業運営に対し、ご協力とご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年はロシア連邦が2月24日に開始したウクライナへの軍事侵攻により各先進国による対ロシア制裁措置がロシアのエネルギー供給を制約したことでエネルギー価格が高騰し、それを受けて米連邦準備制度理事会（FRB）が急速な政策金利の利上げを実施していることでドル高が進み、急速な物価

高が進んでおります。

この物価高は各組合員の経営にとって重大な問題であり、燃料、肥料、配合飼料など海外輸入に頼っているものが多く、大きな打撃を受けております。

当組合の基幹作物の1つである黒毛和牛においては、ホクレン北海道市場の素牛平均購買価格は去勢で77万円、メスで65万円と、昨年比較で6万円程度の安値で推移しており、当組合の年間の販売金額は5億7千万円程度と前年の6億5千万円程度より8千万円減少していることから、配合飼料などの高騰から肥育生産者の経営が厳しい状況が伺えます。今後とも購買者のニーズに答え、より良い素牛を出荷できるように高齢牛の淘汰更新を積極的に進め、優良母系牛群の形成を進めてまいります。また、酪農については黒毛和牛以上に配合飼料の給与量が多く、生乳を保管するバルククーラーの電気代もかかり、そこに牛乳、乳

製品の消費の落ち込みから北海道農協酪農・畜産対策本部委員会より生乳の生産を抑える方針を取られていることから、農家経営により大きな打撃を与えております。

また、ホルスタイン初生価格につきましてもホクレン市場の市場平均価格は10万円程度で推移していましたが、7月より暴落し一時期は1万円を切る価格となっております。要因としましては配合飼料などの高騰が挙げられますが、黒毛和牛肥育と比較しホルスタイン肥育のほうが利益率が低いため、飼料高騰の影響をより強く受けているのではないかと推察されます。

牧草については収穫期に曇天が続き、良質牧草の収穫がなかなかできない状況が続きましたが、一昨年のような猛暑が無かったことから、乳量は堅調に推移しており、販売金額は3億3千万円の取扱実績でした。

昨年の農作物の状況としまして、水稲は日高管内は105の「良」でありました。6月から8月にかけて曇天が続き収量こそ平年並みでしたが、品質の面ではのタンパク質も含め高品質な米を収穫することが出来ました。また、純米吟

醸酒「海桜丸」につきましては、上川大雪酒造 碧雲蔵で仕込みを行ってから3年目を迎え、酒米の原料の質の高さを川端総杜氏から認められ「川端総杜氏が奏でる原材料のシンフォニー響」6選に「静内彗星」が選ばれ、350口限定上川大雪酒造オンラインショップで限定販売されることが決定されており、Aコープしずない店、地酒のときわ、新ひだか観光協会で販売を致します。川端総杜氏の目指す「飲まざる酒」に仕上がっておりますので飲んで頂きたいと思っております。

ミニトマトの促成栽培については6月が特に気温が上がらず着色が進まないため出荷量が少なく、その後も湿度の高い日が続いたため裂果が多く発生しました。抑制栽培への切り替えの8月頃も朝晩の気温が低く着果不良が見受けられ、その後においても天候不順により病害等が発生し、収量が思ったほど伸びない状況でありました。また、燃料価格の高騰から加温で栽培するにあたって見合った収益を上げることが難いため、11月末で出荷が終了となっております。取扱金額は8億4千万円となり、